

初洗礼

エドワード堂迫日出徳

「私とイエス・キリストとの出会いは、三年前でした。」

当時私は、薬物事件で刑務所に収監されていました。この先の人生で薬物の事で苦しまずに生きたいと思いダルクに助けを求め、出所後入寮することになりました。

そのダルクの回復プログラムの中に、ハイヤーパワー、神、という言葉がたくさん出て来るのですが、これまでの人生で神とかかわることなど、全くなかった。神の理解を得るために色々な文献を読みました。その中に遠藤周作の小説がありました。

読んでいくうちに、私の神に対する理解、イエス・キリストに対する理解が、大きく変わりました。特に、神はどんなにひどい状態の私も、見捨てず、愛して下さいる。

キリストは、私を愛し、共に苦しみ、共に歩んで下さる。という所に、とても心が動かされました。

そんなある時、刑務所の中で一人、自分の力ではどうしようもない現実に直面しました。

これまでの私なら、ただ取り乱し、ふてくされ、人を恨んで、世を恨んで、苦しんでいたと思います。しかし、そのときは、なぜか、私を愛してくれている神が、私にとって悪いものを、お与えになるはずがない。

今の私にはわからないし、また、苦しくもあるが、これは私にとって良いことであるに違いない。何か意味があるに違いない。そして、こんな私と共に苦しんで、歩んでくださっている。

私は一人ではない。そう思えました。

すると、これまでの人生には無かった、平安に包まれました。その時、刑務所を出所したら教会に行こうと思いましたが。神のこと、神の愛について、ソ神父に教えていただきました。

正直、理解が難しい所、得心がいけない所が無くなった訳ではありませんが、理解できなくても、得心いかななくても、「私には神の愛が必要なのだ。」

神を信じて、委ねて、導いていただくことが必要なのだ。自分は今もう信じているのだ。そういう自分になっているのだ。「そう思いました。」

ソ神父が私に教えて下さった機会、時間は、私にその事を気付かせてくれた、大切な機会、時間でした。本当に感謝します。

これも神の導きのような気がしてなりません。そして8月20日に洗礼を受けるとき、大変うれしく思っています。ありがとうございました。

